

今日のみことば

□ 7月16日(日) 創世記 4章

ここには家庭生活の初めが記されている。しかし悲しむべきことに殺人の罪が表れている。カインとアベルを通して人類の二つの道について告げられる。

□ 7月17日(月) 創世記 5章

聖書には、系図と呼ばれる祖先を列記した記事がいくつか掲載されている。目的は種々あるが、人間が一人一人神にとって重要な存在であることが示されている。

□ 7月18日(火) 創世記 6章

悪が地にはびこる時、これに染まらず抗して敢然と立つことは非常な決心と勇気と力がある。しかしのアハ敢然と立ちつきました。神が世を滅ぼそうとされたとき、ノアは救われた。

□ 7月19日(水) 創世記 7章

ノアの箱舟において注目すべきことは、彼が神の言葉に従順に従ったこと。すべてのことにおいて彼は神に従った。これが信仰なのです。

□ 7月20日(木) 創世記 8章

神が起こされた洪水は、神がとどめられ水は引いた。やがてノアは神のご命令に従って、箱船から出てきた。ノアの前に新しい将来の約束を神は与えられた。

□ 7月21日(金) 創世記 9章

「神はノアとその息子たち祝福」された。この祝福はノアの神への服従に与えられたものであった。虹は、神の恵みを表すしるしであった。

□ 7月22日(土) 創世記 10章

ノアの三人の息子たちはおいおい増して、諸方に移住し、各地に発展していった。やがて今日見るごとき、世界の諸民諸族となったのです。世界の人類はみな私たちの兄弟です。

ろ ぼ No. 1824

2017年 7月16日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ルカ23:43

するとイエスは、「はつきり言うておくが、あなたは今日わたしと、一緒に樂園にいる」と言われた。

「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。約束します。」(ルカ23:39-43)と。

あなたはこのイエスの言葉をどのように聞かれるのでしょうか。ご自身は罪を犯されなかったが、犯罪人と一緒に十字架につけられているイエスが発せられたこの言葉を、あなたはどうか聞きになりますか。イエスは「わたしと一緒にパラダイスに

イエスの十字架上の七つの言葉が告げるイエスの思いは、私たちの人生の歩みに、少なからぬ影響を与えてきました。主の祈りを通して主イエスが示された、赦しの出来事への示唆は、ここにおいてさらに、明確な約束を伴うものとして私たちに示されます。主の赦しの約束によって、神の恵みはその救いを明らかにします。

「イエスの横で十字架につけられていた犯罪人の一人までが「あんたメシヤ様なんだってなあ。だったらよお、自分とおれたちを救ってもよさそうなもんだぜ。ええっ、どうなんだいっ！」とののしりました。しかしもう一人は、それをたしなめました。「この期に及んで、まだ神様を恐れないのかおれたちやあ悪事を働いたんだから、殺されて当然さ。だがよ、このお方はどうだ。悪いことなんぞ、これっぽっちもしちゃおられないんだぜ。」そして、イエスにこう頼みました。「イエス様。御国に入られる時、どうぞ、私を思い出してください。」イエスはお答えになりました。「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。約束します。」(ルカ23:39-43)と。

いると約束する」と言われるのです。何たることですか。このイエスの言葉を聞いて、私は今ひとつの十字架上のイエスの言葉を思い出しました。イエスは、彼をあざ笑う人たちのことを「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と言われました。

イエスはご自分を死なせようとしている人たちの赦しを神に求めました。神は、イエスを殺した者にさえ救いの道を開くことによって、その祈りに応えられました。犯罪人の一人は、いまにも死のうとしていたとき、キリストに赦しを求め、キリストは彼を受け入れられました。これは、私たちは行いによっては救われず、キリストを信じる信仰によって救われることを明確に示しています。キリストに救いを求めるのに、遅すぎることはありません。

「一人の盗人が救われたのを見れば、どんな罪人も失望することはない。しかしながら、ただ一人の盗人が救われたのみであるから、どんな罪人も油断することはできない」と言った人があります。聞くべき言葉でしょう。しかし忘れてならないことは、彼はイエスに対するいかなるメシヤ性についての理解も持ち合わせてはいなかった。ただ「この方は、悪いことは何もしなかった」という点でイエス啓示に一役買い、「私を思いだして下さい」と願う信仰を告白をしたのでした。しかしルカが最も重要なこととして告げるのは、これに対してイエスが答えられた「今日、わたしとともにパラダイスにいます」という約束のみ言葉にあります。イエスは私たちの歩むべき道を、しっかりと教えてください。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
ヨハネ16:16:33 寂しさの陰で

主は、いよいよご自分の時が近づいて来ているのを悟っておられた。今までは比喻によって語っておられたが、しかし今やあからさまに話して聞かせなければならなくなっているといわれた。それは、主が御父のみもとに帰って行こうとしておられたからです。

イエスの復活後は、すべての信者は神に直接近づくことが出来る。新しい時代が始まり、今やすべての信者は、神と自ら親しく直接話を話をする祭司なのです。主はいろいろなことを訣別説教としてここに語ってこられたのは、私たちが平安を得るためでした。私たちが与えられる平安は、主の死によってなしとげられる勝利の上に与えられる平安です。イエスは「これら のことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」と言われる。



Read God's Word.